



価値創造に必要な資本

社会関係資本

当社は多様なステークホルダーとの関係に基づき事業活動を行っており、ステークホルダーと良好な関係を築くことは、企業価値向上にとって重要と考えています。ステークホルダーとの積極的な対話を通じて、社会のニーズや当社への期待を企業活動に取り入れるとともに、当社への共感を得ることで、お客さま、株主・投資家、従業員、サプライヤー、地域社会などすべてのステークホルダーとともに成長していきます。



ステークホルダーとの対話促進

ステークホルダー	対話促進の取り組み	22年度実績
お客さま	●お客様相談窓口 ご意見に対する回答や社内へのフィードバックによる改善	問合せ件数 1,399 件
株主・投資家	●株主総会 事業報告、決算事項の審議・決議、株主さまとの質疑応答 ●投資家との対話 決算や将来戦略の説明会、個別面談などを通じた対話	機関投資家との対話回数(延べ) 21 社
従業員	●定期的な労使協議会 労使間の相互理解、協議・交渉、意見交換 ●各種意識調査 組織・職場風土や会社生活などに関する調査	労使懇談会開催数 17 回
サプライヤー	●仕入先総会 調達方針の共有、相互研鑽、パートナーシップの強化	参加社数 113 社
地域社会	●NPOなどとの協働・ボランティア活動 社会貢献活動や地域ボランティアへの積極的な参加を通じたコミュニケーション ●業界団体との連携 日本鉄鋼連盟などを通じた業界共通課題への提言、情報共有の促進	ボランティア参加人数(延べ) 6,581 名

従業員との対話促進

当社が社会に価値を提供し、持続的成長を遂げるには、価値を生み出す源泉である従業員の高いエンゲージメントが欠かせません。従業員との対話を積み重ね、働きやすい職場づくり、人事制度を整備するとともに、従業員のエンゲージメントを高める取り組みを推進しています。創立80周年となる2020年には「労使相互信頼でいかなる困難も乗り越え、『笑顔あふれる会社』を全員で目指す」ことを労使相互で確認、共有のうえ「労使協調宣言」として調印しました。また、労使がこれまで以上に本音で意見をぶつけ合い、変革のスピードを上げていくために、労使の会議体を見直し、カンパニー・本部単位での労使懇談会を新たに設置しました。

カンパニー・本部レベルの身近な課題や対応策について、労使が率直に意見交換し、理解を深め、協力しあえるよう努めています。2023年度の取り組みの1つとして、コロナ後のコミュニケーションを活性化させるための挨拶運動を労使で取り組んでいます。また、多様性・風通しのいい職場・働きやすい職場づくりの観点から、全社員を対象にしたモラルサーベイの実施、現場の休憩所改善、立体駐車場や新独身寮の建設など、安心して働くための職場環境整備にも注力しています。

サプライヤーとの関係強化

特殊鋼をはじめとした当社製品の製造には、サプライヤーから供給される優れた原材料や部品、技術が不可欠です。またカーボンニュートラルや人権など様々なサステナビリティ課題への取り組みにおいてもサプライヤーとの協働が必要です。当社はサプライヤーとの緊密なコミュニケーションにより信頼関係を築き、ともに成長し、成果を分かち合うことのできる持続可能なサプライチェーンの構築・強化に取り組んでいます。

愛知製鋼調達基本方針はこちらをご覧ください
<https://www.aichi-steel.co.jp/about/procurement/>



サプライヤーとのパートナーシップ強化

毎年4月に「豊鋼会*1総会」を開催し、国内の主要サプライヤーに対して事業環境や会社方針を説明し、安全・コンプライアンス・サステナビリティに関する取り組みや目標を共有しています。また安全・品質などの観点から、各社の状況に応じたアドバイスをする支援活動や、改善事例共有会やVA展示会を通じた相互研鑽、優良事例の横展開など、サプライチェーン全体での改善活動に取り組んでいます。カーボンニュートラルの実現に向けては、サプライヤーとの勉強会に加え、当社の技術スタッフが各社の省エネ取り組みに具体的なアドバイスをするなど、サプライヤーと一体となって推進しています。

*1 当社とのパートナーシップ・相互信頼に基づき、相互発展を目指すことを目的とした仕入先で構成された団体

サプライチェーン強靱化に向けて

自然災害や事故に加え、地政学リスクが高まっている中、当社では原材料・資材の安定調達に注力しています。仕入先の製造拠点の立地や原産地、工程などの情報を把握し、リスクを数値化することで、マルチソース化や在庫確保など必要な対策を取るとともに、初動や復旧対応を迅速に行える体制を構築しています。

地域社会との関係強化

持続可能な地域社会との共存・共栄

当社では、持続可能な地域社会との共存・共栄を目指しています。「良き企業市民」としての役割を認識したうえで、社会貢献活動などを通じたコミュニケーションを大切にし、事業活動への理解と信頼を得ることで、「いつまでもこの地にあり続けてほしい」と思われる企業に向けて活動に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、「クリーン」「グリーン」「クリエイティブ」「ボランティア支援」を4本柱として活動を展開しています。地域清掃活動である「クリーン作戦」、聚楽園駅前ロータリー的美観維持・向上を目的とした「花壇の整備」、地元の子どもたちに鉄の可能性や役割を学んでもらい創造性を育むことを目的に、東海市と協力して開催している「鉄の教室」などに継続して取り組んでいます。また「愛知製鋼ボランティア基金」を運営しており、社員や関係者への募金活動への協力呼びかけや、福祉団体・施設によるボランティア活動の支援を実施するなどしています。このような活動を展開することは地域との関係強化に加え、従業員の「社会課題の解決」に向けたマインド醸成と事業活動へのフィードバックに繋がっています。これからも持続可能な地域社会の実現に向け、従業員1人ひとりが貢献できるよう、活動の幅を広げていきます。



東海市が開催している「モノづくり道場」の一環として実施した子ども向け工場見学会の様子

推進担当者



総務部 CSR推進室
神原 弘之

地域行事への参加は、地域住民の方々と対話できる重要な機会です。コロナ禍の影響でしばらくの間、これらの行事は中止されていましたが、ようやく再開の兆しが見えてきました。参加している行事の中には、何百年も続く伝統的な祭事も含まれています。地元の方々と信頼関係を築くため、また地元の歴史に触れる貴重な機会として、これからも大切にしたいと考えています。担当者として、地域行事への参加や支援を通じて、地域社会との結びつきを一層強化していきたいです。